保育所・幼稚園と小学校の接続に関する研究

～小学校教育課程を踏まえた就学前（５歳児後半）からのカリキュラムのあり方について～

香南市立野市東小学校　　教諭　　小松　和佳
高知県教育センター　チーフ（幼保研修担当）　尾中　映里

本研究の目的は、保育者（保育士と幼稚園教員）と小学校教員が協同的にカリキュラムを開発し、保幼小合同研修を通して、子どもの学びのつながりについて相互理解をすることが、円滑な接続の充実につながることを検討することであった。具体的に、フィールドワーク（実際の子どもたちの姿から見取る方法）によって、遊びの中の学びについて分析し、５歳児９月から３月までのアプローチカリキュラムを開発した。また、保幼小合同研修では、ワークショップによって、保育者と小学校教員が「子どもたちの育ち」や「遊びの中の学び」について相互理解した。保育者と小学校教員を対象に、保幼小接続に関するアンケート調査を行った。その結果、幼稚園教員は、研修前後ともに接続について意識が高いことが明らかとなった。また、小学校教員と保育士は、研修前に比べて、「遊びの中の学び」を意識した指導の工夫について日々の実践に生かそうという意識が高まり、「遊びの中の学び」についての相互理解が深まった。

キーワード：保幼小接続、アプローチカリキュラム、保幼小合同研修、相互理解、遊びの中の学び

１　研究目的

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議の報告（平成 22 年）においては、幼児期から児童期へと接続期を設定し、教育課程を編成・実施するとともに、保育者と小学校教員が学びのつながりを相互理解する必要性が示された。また、無藤（2011）は、保育者と小学校教員が、幼児期からの学びや育ちを小学校教育に生かしきれていないことが課題であるとしている。そして、幼児期における遊びを充実させ、「学びの芽生え」を育てることを大切にしたアプローチカリキュラムから、幼児期に学んだ力を伸ばしていくことができるスタートカリキュラムへと学びをつなげていくことの必要性を強調している。

平成 22・23 年度高知県教育センター研究において、スタートカリキュラムが開発され、その有効性も実証されている。そこで、本研究では、保育所、幼稚園年長児後半（５歳児９月～３月）の「アプローチカリキュラム」を開発し、それを保幼小接続期カリキュラムとして位置付けたならば、さらに小学校への円滑な接続の充実を図ることができると考え、研究することとした。

２　研究仮説

保育所、幼稚園での遊びの中の学びが、小学校の学習や生活へとつながる「アプローチカリキュラム」を協同的に開発するとともに、保育者、小学校教員の合同研修を通して、学びのつながりを相互理解することで、幼児期から小学校への円滑な接続の充実を図ることができる。

３　研究内容

(1)アプローチカリキュラムの開発

ア　アプローチカリキュラムの定義

アプローチカリキュラムは、「幼児期における遊びの中の学びが小学校の学習や生活に生きて働くことができるよう工夫された保育所、幼稚園年長児後半（５歳児９月～３月）のカリキュラム」とした。

イ　アプローチカリキュラム開発の手法

(ア)フィールドワーク（幼児の具体的な遊びの姿を見とる方法）を取り入れ、ビデオ等で記録し、事例としてまとめ、記録者（小学校教員）考察欄に記述する。

(イ)担任である保育者は、予想される子どもの思いや、実際の保育での援助や意図的な環境構成等を保育者考察欄に記述する。

(ウ)遊びの中の学びが、小学校教育課程へどうつながっているのか整理分析する。

(エ)見取った事例をいくつかのカテゴリーに分類しまとめ、保幼小接続期カリキュラムの中に位置付ける。

(2)保幼小合同研修会の実施及びアンケート調査

ア 保幼小合同研修会

対象：Ａ市立Ｂ小学校校区小学校教員 19 名、保育士５名、幼稚園教員５名

目的：子どもたちの学びのつながりについて相互理解を図るため

実施日：第１回 11 月７日　第２回１月 23 日

内容：第１回　・子どもたちの「良い所」や「課題」についてのワークショップ等

第２回　・遊びの中の学びについてのワークショップ等

イ 保育所・幼稚園と小学校の接続についてのアンケート調査・分析・考察

対象：Ａ市立Ｂ小学校校区小学校教員 24 名、保育士 14 名、幼稚園教員８名

目的：保幼小接続についてどのような意識を持っているかを把握し、合同研修実施後にその変容を見取る

実施日：第１回 11 月６日　第２回１月 25 日

内容：スタートカリキュラム・アプローチカリキュラム、幼児教育と小学校教育の保育・教育内容、遊びの中の学びについての理解度の調査

４　研究結果

(1)アプローチカリキュラムの開発

アプローチカリキュラムは、フィールドワークを取り入れ保育者と協議を行いながら開発したものである。６月から３月にかけて 61 事例（Ｃ保育所 18 日間[21 事例]、Ｄ幼稚園 23 日間[40 事例]）を記録し、分析を行った。実際に見取った多くの事例から育っている力を分析したところ、「生きる力の基礎」として位置付けることができた。例えば、ドッジボールの組分けで、相手チームに力の強い人が集まっていることに気付き、組分けをやり直したいと提案する子どもたちの姿があった。この事例から、育っている力は「協同性」、「不公平さについての気付き」、「ルールの大切さについての気付き」、「身体を動かす喜び」とし、これらの力は、小学校のスタートカリキュラムや体育の教科及び道徳につながっていると分析整理することによって、学びの連続性を明確にした。

このように「生きる力の基礎」として顕著に位置付く 40 事例を、リレー［４事例］、ドッジボール［３事例］、協同性［５事例］、文字［６事例］、時計・数［６事例］、土遊び［４事例］、自然［４事例］、劇遊び［４事例］、異年齢児とのかかわり［４事例］の９のカテゴリーに分類し、カリキュラムの主な経験内容・活動に位置付けた。活動を行うにあたっての環境構成や留意点についても示した。経験内容・活動と対応させることにより、保育者の援助が具体的に見えるように工夫した。また、子どもたちの課題を踏まえ、幼児期の終わりまでに育てたい子どもの姿を設定し、その姿から見出した子どもたちに定着させたい力をカリキュラムに位置付けた。そして、円滑な接続のためには子ども同士の交流や保護者の理解と協力が不可欠であることから、保幼小連携・交流や家庭との連携も提示し、併せて行うことの大切さも示した。このようにして開発したアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムのつながりが見えるよう、保幼小接続期カリキュラムの全体を一覧にまとめた。

(2)遊びの中の学びについての相互理解

保幼小合同研修会の前後で行ったアンケート調査結果を比較すると、幼稚園教員は保幼小接続について意識が高く持続した。幼児期の遊びの中の学びについて、「あまり知らない」と回答した小学校教員は、８名（33%）から０名と変化した。また、「よく知っている」、「知っている」と回答した人数は、16 名（67%）から 20 名（96%）となり、小学校教員は、遊びの中の学びについて一定理解することができたということが分かる。また、「『幼児期の遊びを通した学び』を意識した指導の工夫を実践すること」について、「あまり思わない」と回答した小学校教員は、１名（４%）から０名となり、「大変そう思う」と回答した小学校教員は、２名（８%）から６名（29%）と変化した。また、保育士も、「大変そう思う」の人数が、３名（21%）から６名（46%）と変化が見られ、小学校教員と保育士は遊びの中の学びを日々の実践に生かそうという意識に変化があったという結果が得られたことから、遊びの中の学びについての相互理解が深まったと考えられる。

５　研究の成果と今後の課題

アプローチカリキュラムの開発により、保育者は、日常行っている保育が小学校の学習へとつながることを認識することができ、保育の充実を図ることができた。一方、小学校教員にとっても、アプローチカリキュラムを通して、遊びの中の学びを小学校へとどのようにつなげていくのか理解することができた。

課題としては、年長児担任だけでなく保育者全員が、５歳児後半からのアプローチカリキュラムを意識した保育を各年齢で行っていくことが挙げられる。今後は、アプローチカリキュラムからスタートカリキュラムへのつながりも考慮しながら、アプローチカリキュラムを検証していく必要がある。

【参考・引用文献】

・幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議（2010）『幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）』
・無藤隆（2011）『保育の学校３』フレーベル
・横浜市こども青少年局・横浜市教育委員会（2012）『育ちと学びをつなぐ～横浜版　接続期カリキュラム～』

資料１　保幼小接続期カリキュラム

保幼小接続期カリキュラム　A市立B小学校校区保育所・幼稚園　アプローチカリキュラム → スタートカリキュラム

0歳～年長8月　9月　10月　11月　12月　1月　2月　3月　4月（1年生）　5月

≪保育所・幼稚園≫　≪小学校≫

課題

・基本的生活習慣の定着に個人差がある
・場と相手に応じた適切な言葉使いや行動ができない幼児がいる
・最後までやり抜く継続性や精神力に弱さが見られる

・思いが通じない時に、手が出たり、トラブルになったりする時がある
・遊びや生活の中でルールが守れずトラブルになる時がある
・自己中心的な行動が見られることがある
・いろいろなことに興味関心はあるが、自分が苦手なことや嫌なことには消極的である

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

◆　困難なことにつまずいても気持ちを切り替えて乗り越えようとする
◆　いろいろな活動や遊びにおいて自分の力で最後までやり遂げ、満足感や達成感をもつ
◆　相手の話を聞いて分かったり、自分の思いや考えなどを相手に分かるように伝えたりしようとする
◆　友だちとのかかわりを通して互いのよさを分かり合い、心を通わせながら一緒に遊びを進めようとする
◆　共通の目的をもって話し合ったり、役割を分担したりして、力を合わせてやり遂げようとする

→

◆　主体的に学ぶ
◆　学習意欲がある
◆　コミュニケーション能力がある
◆　自分や友だちのよさに気づく
◆　思いや願いをもつことができる

定着させたい力

生きる力の基礎

確かな学力につながる基礎
○学びを支える基礎
［好奇心、思考力、探究心、達成感、向上心、協同性等］
○学びの芽生え
・コミュニケーション☆
・図形、長さ、ことば（文字）、数量等

・身近な物や用具などの特性や仕組みを生かしたり、いろいろな予想をしたりして、楽しむ
・友だちと積極的にかかわり、相手の思いや考えなどを感じながら行動する
・自分の考えや気持ち、困っていることを自分なりの言葉で話そうとする
・生活や遊びを通して、必要感をもって、数えたり、比べたり、組み合わせたりしながら、物の数量や長短、広さや速さ、、図形の特徴等に関心をもつ
・文字が、生活や遊びの中で人と人をつなぐコミュニケーションの役割をもつことに気付き、読んだり、書いたり、使ったりする

→
・物との多様なかかわりとの中で、物の性質や仕組みについて考えたり、気付いたりする
・共通の目的に向かって取り組む中で、みんなで協力し合うことの楽しさや責任感、達成感を感じる

豊かな心につながる基礎
○規範意識☆
○自尊感情☆
○人間関係

☆A市の保幼小中接続の課題

・相手も自分も気持ちよく過ごすために、してよいことと悪いことの区別などを考えて行動する
・友だちの思いや考えに気づき、心を通わせながら一緒に遊ぼうとする
・身近な人々に、自分からも親しみの気持ちをもって接する

→
・友だちと意見を出し合い、一緒に遊ぶ中で、自分の気持ちを抑えたり相手の意見を受け入れたりする
・クラスのみんなと心地よく過ごしたり、より遊びを楽しくするためのきまりがあることが分かり、守ろうとする
・自分の気持ちを調整し、友だちと折り合いをつけようとする
・関係の深い人々との触れ合いの中で、自分が役に立つ喜びを感じる

体力・健康につながる基礎
○基礎的な生活習慣
○食
○健康・安全

・衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動の必要性に気づき、自分でする
・いろいろな遊びの中で体を動かす喜びを味わい、進んで体を動かそうとする
・自分の健康や安全についての心構えを身に付け、自分の体を大切にする気持ちをもつ

生きる力

知	**確かな学力** 基礎・基本を身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
徳	**豊かな心** 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
体	**体力・健康** たくましく生きるための健康や体力

主な経験内容・活動

1 体を動かして遊ぶ楽しさやみんなで力を合わせる喜びを味わう　○リレー　○かけっこ　○綱引き　○おにごっこ　○ドッジボール　○マラソン　○なわとび　○鉄棒

2 物の数や文字に興味を深め、遊びや生活に取り入れる　○お店屋さんごっこ　○郵便屋さんごっこ　○カルタ　○トランプ　○なぞなぞ　○すごろく　○しりとり

3 自然に触れ、自然物を通して気づいたこと感じたことなどイメージを膨らませた遊びをしようとする　○秋・冬の自然物を使った遊び　○氷遊び

4 友だちと互いに考えやイメージを出し合いながら、協力して遊びを進めていく充実感を味わったり、表現したりする楽しさを味わう
○劇遊び　○楽器遊び　○ごっこ遊び　○歌

5 自分なりの目当てをもって繰り返し取り組む
○なわとび　○こま回し
○たこ作り　○たこ揚げ　○編み物

6 自分たちの成長を感じ、自信を持って行動する
○卒園にむけての活動
○園生活を振り返り、やりたい遊びを友だちや異年齢児と一緒に楽しむ

7 異年齢児との遊びや当番活動を通して、自信をもって活動しようとする　○異年齢児との遊びや交流活動　○給食当番　○掃除当番　○出席調べ　○飼育活動

各校の教育課程に基づいた学習

教科等の学習
・国語、算数、生活科、音楽、図画工作、体育、道徳、特別活動等

スタートカリキュラム　計52時間
大単元
第1期「はじめまして」
25時間
第2期「がっこうだいすき」
16時間
第3期「みんななかよし」
11時間

環境構成◎留意点○

1 ◎自分なりにめあてをもって取り組み、もっている力を十分に発揮して遊ぶことができるように、運動遊びに必要な道具を準備したり場の確保をする
○子ども同士の話し合いの場、協力し合う姿、頑張りを大切にし、友だち同士認め合えるような雰囲気づくりを心がける

2 ◎遊びの中で、数えたり、並べたり、比べたり、また、文字の必要性に気づく場面を作る
○子どもたちの興味や活動意欲の高まりを十分に受け止めながら力が発揮できるようにする

3 ◎季節の変化を生活の中に多く取り入れる
○身近な環境の中の様々なものとの出合いの中で、心を揺さぶり、子どもなりのイメージを大切にしながら創造性を豊かにしていく

4 ◎十分遊び込むことができるような時間や場を確保する
◎要求が出た時は出せるように、様々な材料を準備しておく
○子どもたちの中から出てくる思い、イメージを大切にし、そのイメージを実現できるよう、寄り添い、一緒に考えながら活動を進める

5 ◎保育者もモデルとなり、遊びを広げるような場面を作る
○目的に向かって考えたり工夫したりしながら、友だちとやり遂げたという充実感、満足感を味わわせる

6 ◎今まで経験した遊びの中で、楽しかったことが十分にできる環境（用具・材料等）を設定する
○一人ひとりの良さを仲間として認め合い、個々の力を十分に生かせるよう配慮する
○卒園にむけてさまざまな心情の変化を察しながら、成長した点に気づかせ周囲の人たちに感謝の気持ちをもてるようにする
○新しい生活への期待と不安な気持ちを受けとめる

7 ◎異年齢児とのかかわりをもてるような場面を設定したり、いろいろな当番活動が選べたりするような工夫をする
○一人ひとりのがんばりを認めたり、人の役に立つことへの喜びに共感したりして、自信につなげていく

スタートカリキュラムの特徴

○一人ひとりの活動時間を確保し、活動的な学習内容を多く取り入れている。
○コミュニケーション力が高まり、友だちとのかかわりが深まる
○目標を「楽しむ」「慣れる」「親しむ」などにして、個の内面の育ちを大切にする

スタートカリキュラムの工夫

①児童が主体的に活動でき、安心して活動が行えるような環境を設定する
②複数の教科の目標や内容を組み合わせた合科的な学習の時間を設定する
③幼児期に経験してきた、「遊びを通して総合的に学ぶ」指導方法や指導形態を小学校の教科の学習や生活に取り入れる
④教師のかかわり方の工夫をする

保幼小・小連携交流

子ども	・第1回 保幼小交流活動（保幼小学校のウォークラリー）	・第2回 保幼小交流活動（秋の自然物を使って音の出るものを作る）	・第3回 保幼小交流活動【一日入学】（ゲーム、教室・学校案内）
教職員	☆交流活動、一日入学等、事前打ち合わせ及び情報交換会	☆保幼小合同研修会の実施（研修計画位置づけ）	☆要録の送付及び受け取り

☆スタートカリキュラムの支援　☆小学校授業参観への保育者参加

家庭との連携

・生活習慣の見直し（早寝、早起き、朝ご飯、排便のリズム）
・子どものよい面や成長している姿を保護者に伝える
・就学への心構えや生活習慣を再確認する
・集団生活を通し、協力し合い、認め合う中で、共に育つことを伝える
・保護者の期待や不安を知り、適切に対応する
・学年便り等で活動やねらい、子どもの様子等を伝える
・学年、学校体制の取組を伝える